

Human Total HGFA Assay Kit - MCM

96 Well

1. はじめに

Hepatocyte growth factor activator (HGFA)はHGFを活性体へ転換する作用を持つセリンプロテアーゼです。主に肝臓からプロ体として産生され、トロンビンやXa凝固因子などの働きで活性型のActivated HGFAになります。HGFAの生理作用に対する抑制因子として、Kunitz型セリンプロテアーゼインヒビターである HAI-1、HAI-2の二種類のタンパクが同定されています。

本製品は Human Total HGFAを測定するキットです。

関連製品

製品番号	製品名	容量
27401	Human Activated HGF Assay Kit - MCM	96 Well
27402	Human Total HGF Assay Kit - MCM	96 Well
27403	Human Activated HGFA Assay Kit - MCM	96 Well
27404	Human Total HGFA Assay Kit - MCM	96 Well
27405	Human HAI-1 Assay Kit - MCM	96 Well
27407	Human c-Met Assay Kit - MCM	96 Well

2. 原理および測定方法

本製品は、サンドイッチ法によるEIA (Enzyme Immuno Assay)キットです。1次抗体は、プレートに固相されていますので、検体および標準物質を加え、1次反応をおこない洗浄後 HRP 標識された2次抗体を加え2次反応をおこないます。反応後、過剰の2次抗体を洗浄除去します。Tetra Methyl Benzidine (TMB) により発色させます。この発色は、Human Total HGFA の量に比例します。

3. 測定範囲

0.47 ~ 30 ng/mL

4. 使用目的

- 血清、EDTA-血漿および培養上清中の Human Total HGFA を測定できます。
- ヘパリンは Human Total HGFA の測定に影響がありますので血漿は EDTA 採血をご使用ください。

5. 構成試薬

1	抗体プレート (抗 Human Total HGFA Rabbit IgG A.P. 固相)	96Well x 1
2	標識抗体濃縮液 (30倍濃度 HRP 標識抗 Human Total HGFA Rabbit IgG Fab' A.P.)	0.4mL x 1
3	標準物質 (Human Activated HGFA)	0.5mL x 2
4	希釈用緩衝液 (1% BSA, 0.05% Tween-20 含有 PBS)	30mL x 1
5	標識抗体用溶解液 (1% BSA, 0.05% Tween-20 含有 PBS)	12mL x 1
6	TMB 基質液	15mL x 1
7	停止液 (1N H ₂ SO ₄)	12mL x 1
8	濃縮洗浄液 (40倍濃度リン酸緩衝液)	50mL x 1

6. 用法および用量 (操作方法)

(1) 必要な器具・器材

プレートリーダー (測定波長: 450nm)	マイクロピペットおよびチップ
希釈用テストチューブ	メスシリンダーおよびビーカー
精製水	グラフ用紙 (両対数)
ペーパータオル	洗浄ピン
恒温器 (37°C±1°C)	採取用容器 (清潔な試験管など)
冷蔵庫 (4°Cとして)	

(2) 準備

濃縮洗浄液の希釈方法

濃縮洗浄液は、40倍濃度です。使用前に常温に戻し十分に転倒混和します。濃縮洗浄液 50mL に対して精製水を 1,950mL 加え混和します。これを洗浄液とします。冷蔵保存し2週間以内に使用してください。

標識抗体濃縮液の希釈方法

標識抗体濃縮液は30倍濃度です。別に用意した採取用容器にて、必要量に応じて標識抗体濃縮液を標識抗体用溶解液で30倍希釈してください。これを標識抗体とします。

希釈例)

1スリット (8ウェル) 使用する場合=800μL 必要(最低量)

(標識抗体濃縮液を30μLとり、標識抗体用溶解液870μLを加え良く混和し、100μLずつ使用します。)

この操作は、標識抗体添加の直前におこなってください。

標識抗体濃縮液の残りは、蓋をしっかりと閉め冷蔵にて保存してください。有効期限内に再度使用できます。

標準物質の希釈方法

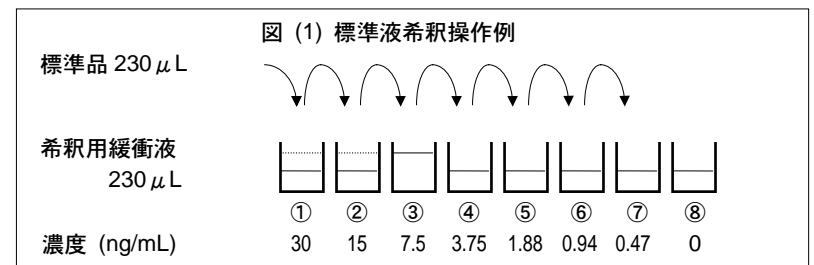
標準物質のバイアル瓶に精製水を0.5mL加えて完全に溶解します。この時標

準物質濃度は60ng/mLとなります。

希釈用テストチューブを8本用意し希釈用緩衝液を230μLずつ量り取り、各々のテストチューブに

30ng/mL, 15ng/mL, 7.5ng/mL, 3.75ng/mL, 1.88ng/mL, 0.94ng/mL, 0.47ng/mL, 0ng/mLの表示をします。

30ng/mLの希釈用テストチューブに60ng/mLの標準物質溶液を230μL加え混和しその溶液230μLを15ng/mLの希釈用テストチューブに加え混和します。順次2倍連続希釈をおこない30ng/mL~0.47ng/mLまでの7点を希釈標準品とし、0ng/mLを検体ブランクとします。(図(1)参照)



検体の希釈方法

検体は必要に応じて希釈用緩衝液にて希釈し測定してください。

(3) 測定操作方法

試薬は使用前に常温に戻し、数回静かに転倒混和し変化のない事を確かめてください。

検体の測定と同時に希釈標準品を測定し検量線を設定してください。

1 ブランクの添加 (以降図(2)参照)

試薬ブランクを設定し希釈用緩衝液を100μL入れます。

2 検体、希釈標準品の添加

検体100μLおよび希釈標準品各100μLならびに検体ブランク100μLを入れます。

3 プレートカバーをして37°C 60分間反応

4 洗浄7回

洗浄操作に十分注意して測定してください。推奨する洗浄方法は、抗体プレートの各ウェルを洗浄ピンに入れた洗浄液を用いて勢い良く洗い流しその後、洗浄液をウェルに満たし15~30秒間静置しプレートを逆さまにして振り払い洗浄液を完全に除去します。この洗浄操作を規定回数以上おこない、ペーパータオル等の上でたたいて全ウェルの水分を完全に除去してください。プレートウォッシャーによる洗浄は、機種により洗浄が不十分な場合がありますので4回洗浄後、さらに上記洗浄方法による洗浄を3回おこなってください。

5 標識抗体の添加

検体、標準、検体ブランクに標識抗体を各々100μL添加します。

6 プレートカバーをして4°C30分間反応

7 洗浄9回

上記4洗浄と同様操作

8 TMB基質液の添加

あらかじめ必要量を採取用容器にとり、そこからすべてのウェルにTMB基質液を100μL添加します。TMB基質液添加後、反応液は徐々に青色に変わります。この時の反応は遮光してください。また、採取用容器に残ったTMB基質液は、コンタミの原因になりますので元に戻さないでください。

9 遮光をして常温30分間反応

10 停止液の添加

すべてのウェルに停止液を100μL添加します。プレートの側面を軽くたたいて混和します。反応液は青色から黄色に変化します。

11 吸光度測定

プレート底面のよごれや水滴を拭き取り液面に気泡がないことを確認した後、30分以内に試薬ブランクを対照として検体および標準ならびに検体ブランクの波長450nmにおける吸光度を測定してください。

図(2) 測定操作一覧

試料	検体	標準	検体ブランク	試薬ブランク
	検体 100μL	希釈標準品 100μL	希釈用緩衝液 100μL	希釈用緩衝液 100μL
プレートカバーをして37°C 60分間反応				
洗浄7回				
標識抗体	100μL	100μL	100μL	-
プレートカバーをして4°C30分間反応				
洗浄9回				
TMB基質液	100μL	100μL	100μL	100μL
遮光常温30分間反応				
停止液	100μL	100μL	100μL	100μL
プレートをたたいて反応液を混和し、30分以内に試薬ブランクを対照として450nmにおける検体、標準、検体ブランクの吸光度を測定				

7. 操作上の注意事項

- 1 検体は、採取後速やかに測定してください。保存する場合は、凍結保存とし、検体の凍結融解を繰り返さないでください。また、融解は低温でおこない測定前に十分混和してください。
- 2 検体は必要に応じて希釈用緩衝液にて希釈してください。
- 3 検体や標準物質は、二重測定することをおすすめします。
- 4 検体は、中性域のものを使用してください。また、有機溶媒等の混入も反応に障害がありますので注意してください。

- 抗体プレートの洗浄は必ず付属の洗浄液を使用してください。不十分な洗浄は、測定誤差の原因となりますので正確におこなってください。
- 洗浄液は、プレートをペーパータオルの上でたいて完全に除去してください。ペーパータオルをウェルの中に入れる事はしないでください。
- TMB 基質液は、光に対して敏感です。遮光保存してください。金属との接触も避けてください。
- 吸光度測定は、停止液添加後 30 分以内におこなってください。

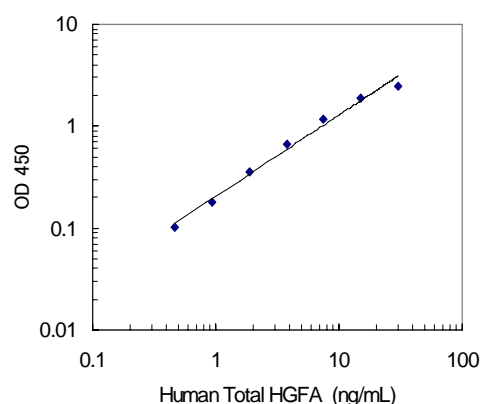
8. 測定結果の算出方法

対数グラフの縦軸に吸光度を、横軸に検体濃度を取り各標準物質濃度の吸光度値から検体ブランクの吸光度値を引いた値を取り検量線を設定します。

試料検体の吸光度値から検体ブランクの吸光度値を引いた値を検量線に当てはめ、検体濃度を読みとります。

9. 測定値と検量線作成例

標準品濃度 (ng/mL)	吸光度 (450nm)
30	2.614
15	2.037
7.5	1.302
3.75	0.782
1.88	0.484
0.94	0.304
0.47	0.227
0 (検体ブランク)	0.124



上記検量線は作成例です。測定に当たってはその都度検量線を作成してください。

10. キットの性能

(1) 希釈試験 (標準物質を添加したサンプルを使用しています)

検体	希釈倍率 (x)	測定値 (ng/mL)	理論値 (ng/mL)	%
培地 (10%FCS 添加 RPMI-1640)	2	6.98	7.50	93.1
	4	3.38	3.75	90.1
	8	1.63	1.88	86.7
血清 (健常人)	2,000	8.13	7.77	104.6
	4,000	3.81	3.74	101.9
	8,000	1.94	1.92	101.0
血漿 (EDTA) (健常人)	2,000	9.52	8.25	115.4
	4,000	4.17	3.91	106.6
	8,000	1.88	1.84	102.2

(2) 添加回収試験

検体	理論値 (ng/mL)	測定値 (ng/mL)	%
培地 (10%FCS 添加 RPMI-1640) (x2)	3.75	3.82	101.9
	1.88	1.94	103.2
	0.94	1.01	107.4
血清 (健常人) (x4,000)	9.76	9.89	101.3
	6.01	6.86	114.1
	4.13	4.77	115.5
血漿 (EDTA) (健常人) (x4,000)	9.49	9.99	105.3
	5.74	6.28	109.4
	3.86	4.15	107.5

(3) 同時再現性

測定値 (ng/mL)	SD 値	CV 値 (%)	n
13.16	0.35	2.7	24
3.42	0.22	6.4	24
0.70	0.04	5.7	24

(4) 測定間再現性

測定値 (ng/mL)	SD 値	CV 値 (%)	n
13.36	0.70	5.2	34
3.53	0.31	8.8	34
0.73	0.06	8.2	34

(5) 特異性

測定物質	交差率
Human Total HGFA	100%
Human HGF	≤0.1%
Human HAI-1	≤0.1%
Human HAI-2	≤0.1%
Human c-Met	≤0.1%

(6) 感度

84.3 pg/mL

本キットの感度は、NCCLS (National Committee for Clinical Laboratory Standards)の評価方法に従い求めました。(National Committee for Clinical Laboratory Standards Evaluation Protocols, SC1, (1989) Villanova, PA : NCCLS 参照)

11. 使用上または取り扱い上の注意

- 保存は、2~8℃としてください。使用前に全ての試薬は常温に戻してください。
- 標準物質は、凍結乾燥品です。開封は、十分注意しゆっくりとおこなってください。
- 停止液は強酸性 (1N 硫酸) です。衣服 皮膚等への接触および廃棄には十分注意してください。
- 使用後の抗体プレートや試薬は、多量の水で洗い流してから廃棄してください。
- 標識抗体濃縮液は、まれに析出を認める場合がありますが、性能に問題はありません。
- 構成試薬には動物血液成分を含む物があります。取り扱いに注意し使用後は手洗いなどをおこなってください。
- ロットが異なる製品の構成試薬や他のキットの構成試薬を混ぜたり、交換して使用することは避けてください。
- 有効期限切れの試薬は、使用しないでください。
- 本キットは、研究用試薬です。診断等に用いることはできません。

12. 保存方法および有効期限

2~8℃保存
使用期限は外箱に記載

13. 包装単位および製品番号

96 Well
製品番号 27404

14. 参考文献

- Kataoka H, Hamasuna R, Itoh H, Kitamura N, Koono M. Activation of hepatocyte growth factor/scatter factor in colorectal carcinoma. Cancer Res. 2000 Nov 1;60(21):6148-59.
- 坪内博仁, 宮田義史 加藤順也 HGF の血清・組織濃度測定 of 臨床的意義, Molecular Medicine Vol.38 No.3 294-301 2001
- Shimomura T, Denda K, Kitamura A, Kawaguchi T, Kito M, Kondo J, Kagaya S, Qin L, Takata H, Miyazawa K, Kitamura N. Hepatocyte growth factor activator inhibitor, a novel Kunitz-type serine protease inhibitor. J Biol Chem. 1997 Mar 7;272(10):6370-6.
- Kawaguchi T, Qin L, Shimomura T, Kondo J, Matsumoto K, Denda K, Kitamura N. Purification and cloning of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 2, a Kunitz-type serine protease inhibitor. J Biol Chem. 1997 Oct 31;272(44):27558-64.
- 宇都浩文, 山岸俊哉, 坪内博仁 新しい繊維化マーカーとしての HGF activator inhibitor (HAI)-1 の有用性の検討, 第 45 回日本肝臓学会, 日本消化器病学会大会合同 2003, 10, 大阪

15. 問合せ先

株式会社 免疫生物研究所 営業部
〒370-0831 群馬県高崎市あら町 5-1
TEL 027-310-8040 FAX 027-310-8045

16. 発売元

三菱化学メディエンス株式会社

Version 1.